

MOKK

プロフィール

村本すみれを中心にメンバーは皆スタッフで構成される。

日本大学芸術学部在学中の2002年に前身が発足。2007年『---frieg』より活動を本格化。

クリエイターやダンサーとのコラボレーションにより、「劇場機構にとらわれない空間からの発信」を軸とした活動を行う。

また、駐車場やビル、コンテナボックスなど、特異な空間で身体表現の可能性を探る実験企画 MOKK LABO や映像作品なども企画製作する。

村本すみれ（振付・演出・企画）

中村信夫、加藤みや子に師事。

2005年日本大学芸術学部演劇学科卒業。

2007年ダンスプロジェクト「MOKK」を大学の同期らと立ち上げる。

景色や特殊空間に新たな美しさや色彩豊かなストーリーを感じさせる演出で、独自の美的世界観を描く。

2004年、2011年、ベルギー・フランスへ短期留学。

上演作品

LAURA

踊りは祈り

わたしの右手は万物の表層をなぞり
わたしの左手は万象の深層をさぐる

わたしの声は高く 遠く 彼方に向かい
くりかえし くりかえし
美しくこだまし

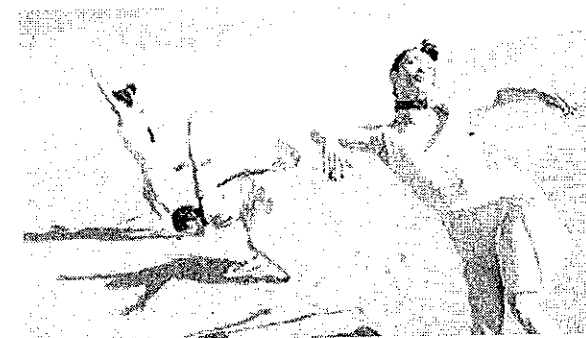
やがて墜ちるかすれる唄声
静寂よりうごめく
自身の陽脈、陰脈

初演：2010年6月、東京キリストの教会

初演では、24人の出演者の祈りの旋律や衝突が、教会という空間で身体と彼女たち自身の声によって、静かに、深く奏でられた。今回は、2011年11月に招聘された Seoul International Choreography Festival の内容を元に 特別バージョンでの再演となる。

ダンス・インパクト吉祥寺 vol.1

キリコラージュ・クリタマキ・MOKK



2012年1月9日（月・祝） 午後3時開演

吉祥寺シアター

主催：公益財団法人 武蔵野文化事業団

Monday, 9th January 2012 at 3:00 p.m.

KICHIJOJI THEATRE

Presented by the Musashino Cultural Foundation

舞台監督：廣瀬雅彦 音響：星野大輔 照明：影山雄一



キリコラージュ

プロフィール

ストウミキコと外山晴菜の元・演劇人ふたりによるムーヴメント的ダンスカンパニー。
「ASOBUXTSUKURUXODORU」という独自のスタイルで作品をつくる。CM・映画や舞台の振付にも携わるなど、柔軟で自由な活動を展開。“「ひとり」は面白い、「ひとと」はもっと面白い”がテーマのワークショップが評判で、全国で活躍中。

ストウミキコ

1978 年生まれ。大学で演技を学び役者として数年活動、浮気で始めたダンスが今では本業に。人間への関心が貪欲な超接近系ダンサー。映像作品や舞台の振付他、ムーヴメント指導者としても活躍中。小さい頃なりたかった職業は、選曲家とウィンドーディスプレイアーティスト。休日は切り絵をして遊んでいる。

外山晴菜

学生時代に演出・役者を経験。出演する芝居の振付を担当するようになり、ダンスに夢中になる。バカと理論と瞬発力を使う、「ミス素人を踊らせたらたぶんNo.1」。現在、CM や舞台などの振付活動もサカン。小さい頃なりたかった職業は、お花屋さんとコピーライター。休日は脳内で柴犬と遊んでいる。

上演作品

『(C)キリコラージュ,2011』

昨年のクリスマスに『聖夜のひるね』という新作を上演しました。
今回はそのつづき。
ひるねのつもりが、聖夜どころか数日を寝過ごし、そのまま年明けしてしまった。
目覚めたら 2011 年は終わっていた、というところからはじめます。
やり残したことだらけの後悔スタート。

「(C)2011」というクレジットは重いらしい。
大事なのは、2011 年に誰が何をつくったかという事実で、
時間が経ってから思い出したようにつくっても意味がないからだとか。
これ↑そのものを作品にしたいと思いました。

「今」この時点じゃもうすでに遅い、薄い。なんて！
そんなこと初めての感覚ですが
自分たちなりに面白がって、たくましく年、越します。

今回、タイムリーな上演機会に恵まれました。
武蔵野文化事業団の皆さま、関係者の皆さま、
そして本日ご来場くださいました皆さま。
ありがとうございます。
本年もよろしくおねがいいたします。

キリコラージュ,2012

クリタマキ

プロフィール

高校よりダンスを始め大阪体育大学に進学。卒業後、2009 年より活動を開始。劇場やライブハウス、商店街、カフェ、ギャラリースペース等でのダンスパフォーマンスや、アーティストとのコラボレーションも積極的に展開。
これまでに舞台芸術アーティスト発掘事業 CONNECT vol.4 への選出やこまばアゴラ劇場サマーフェスティバル汎にて単独公演をおこなう。

上演作品

檸檬

はじめましてクリタマキです。

今回の上演作品は私的妄想文学シリーズとして【日本文学】×【ダンス】をテーマにした第一弾の作品である、梶井基次郎の「檸檬」という作品に挑みます。

この作品は彼の短い生涯の晩年に執筆された妄想力とやユーモアに溢れた作品です。
それをどのように解釈しそして自由にダンス化させることができるのか、梶井の妄想ワールドにどのように身体を使って挑もう！？と作品づくりをおこなってきました。

レモンという梶井にとっての「魔法の果実」をどのように映し出すのか。
心地よかったはずの魔法の果実であるレモンは次第に破壊の凶器へと変わっていきます。
日常的なものが爆弾に変化したり、爆発させたい！でもできないっ！というもどかしさとかギリギリ感、青春の中の苦悩のようなものをレモンは象徴していて、梶井の短い生涯と自分とを重ね合わせ懸命に踊るということがこの「檸檬」と私を繋ぐものと信じます。
ただ彼は懸命にもがき必死でいきるということ、若さゆえの苦悩をレモンとして表現したのかもしれない。
日本文学に触発されながらも自らの妄想力を織り交ぜながら展開されていく「喜」と「奇」と「危」に溢れる女子ダンスを是非観てください。

作ることは苦しい、でも踊ることはやっぱり楽しい！そんな不思議なパワーをダンスは与えてくれます。まだまだ活動を始めたばかりですが、私達若手はいろんな表現にチャレンジし自分にしかできないダンスを見つけていこうと思います。今回このような素敵な舞台で踊ることが出来本当に感謝致します。ありがとうございます。